

企業訪問 循環型最前線レポート

サーラグループ



社員300名が協力
廃食用油を回収して、バイオ燃料に活用
サーラグループを訪ねて

地域の中核企業グループが取り組む 再生リサイクル事業

循環型社会の構築に向けて、資源の有効利用が様々な企業で進められていますが、天ぷら油など社員の家庭から排出される使用済みの廃食用油を買い取り、回収してバイオディーゼル燃料BDFに精製し、トラックの燃料にリサイクルしている(株)サーラコーポレーション。

同社は豊橋駅前の都市再開発で誕生したばかりの真新しいサーラグループ本社ビル(愛知県豊橋市)にある持株会社で、中部ガス(株)、ガステックサービス(株)、サーラカーズジャパン(株)が入居、周辺にはサーラ物流(株)、サーラ住宅(株)などがあり、豊橋市の中核企業の拠点となっています。

今回、取材にはサーラ物流(株)取締役物流部長の荘司敏彦氏に(株)サーラコーポレーションのバイオ燃料への取り組みと現状についてお話しをお伺いしました。



再生リサイクル事業の現状と今後について語る
サーラ物流(株) 取締役 荘司敏彦氏

隔月10日を“天ぷら10(テン)”の回収日と決め、500ml 5円で買い取る

サーラグループでは、これまで子会社が経営する飲食店から廃食用油を回収し、再生リサイクル事業を行っていましたが、回収先を一般家庭や飲食店など業務用に広げる形で事業を展開。子会社などグループ企業の社員約300名に協力を求め、スタートしま



豊橋駅前再開発で真新しいサーラグループの本社ビルが誕生

した。回収方法は隔月の10日を“天ぷら10(テン)”の日と回収日を決め、社員の方に家庭で使用済みになった廃食用油をペットボトルに入れて持参してもらい、500ml当り5円で買い取る仕組み。ペットボトル大きさは問いませんが1本当り5円でサーラ物流が買い取って回収します。

取材当日は丁度“天ぷら10”の回収日にあたり、サーラグループ本社ビルの通用門でサーラコーポレーションとガステックサービスの社員2名が出社前の社員から廃食用油の入ったペットボトルを受け取っていました。

“天ぷら10”は今回で3回目となり、社員が積極的に協力しています。また、こうした取り組みは新聞などでも広く取り上げられ、社会の注目度は高く、PR効果は絶大なものがあります。社員の意識づけにも大いにプラスになっています。



社員から廃食用油の入ったペットボトルを回収する担当者



精製設備が入った豊橋リサイクルセンター(株)倉庫



精製設備を拡大、PRが大切

回収した廃食用油はサーラ物流がバイオディーゼルを精製する小型プラントのある豊橋リサイクルセンター(豊橋市神野新田)に運び、品質の良いバイオディーゼル燃料を精製します。今後は能力を向上するため、現施設の隣に大型プラントの入る設備を建設予定で、再生リサイクル事業を本格化する見通しです。

サーラグループでは、一般に向けて積極的にPRする必要があると考え、Jリーグのジュビロ磐田の公式スポンサーになり、ジュビロの「マッチデースポンサー」の企画に参加。対東京ヴェルディ戦を「サーラグループマッチ」として7月26日に実施しました。試合前にヤマハスタジアム来場者に向けて廃食用油の回収活動を行いました。



バイオ燃料を精製する小型プラント

社員を含め、地域の人々が参加して、環境への明確なプライドを持って輪を広げていき、そして大きく繋がっていく。今回の取材ではこうした草の根のパワーの大切さを感じました。

社員を含め、地域の人々が参加して、環境への明確なプライドを持って輪を広げていき、そして大きく繋がっていく。今回の取材ではこうした草の根のパワーの大切さを感じました。